

4・5・6年次生対象の「医学セミナー」を開催。

7月21日（木）放課後、総合実践室で4・5・6年次生の希望者を対象とした「**高校生のための医学セミナー**」（茨城県医療対策課と本校学習進路部の共催）が開催されました。実施要項によると目的は以下のように書いてあります。

県内高校生の医学への興味と本県の医療状況への理解を深め、**県内医学部進学者の増加**と**県内への医師の定着**を促進するために、高校生が医学に触れる機会を提供する。
茨城県地域医療支援センター・筑波大学の医師や医学生が県内高等学校へ赴き、高校生に対し**講演やグループディスカッション**等を行うことで、今後の医学部進学および医師としてのキャリアに役立つ経験の場を提供する。

開催内容は、以下の通りでした。

1. 講話 筑波大学医学医療系 横谷省治 先生（家庭医・総合医）
 - ・医師という仕事について。医師を志すにあたっての**心構え**について。
 - ・地域医療に携わることの**やりがい**、印象に残った診療経験、医師がどのように病気を診断するのか等。
2. 茨城県の医学部支援制度の説明 県医療対策課主任 藤岡紘 先生
 - ・**地域枠制度**や**医師修学資金貸与制度**など、高校生が今後医師を目指すために活用できる県事業の説明。

今回のセミナーは、4・5・6年次生の希望者対象でしたが、**医学部医学科**への進学を考えている**28名**が参加しました。途中、「74歳のマサオさん、便が出ない！」という症例について、その原因を4人グループで話し合う「**アクティブ・ラーニング**」が実施されました。本校の皆さんは、**AL**に慣れているので、楽しく話し合っていました。また、「入院することを嫌がる患者様」に対する、社会的な観点からの考察も実施されていました。医師には、知識・技術とともに**豊かな人間性**が不可欠であると感じました。

現在、日本では多くの県で「**医師不足**」という課題をかかえています。将来、本校の卒業生が、医師として活躍してくれることを期待しています。

